当事者の声

春だ！春だ！正月だ！

春がやって来る。障がい者にも誰にも春がやって来る。その春が僕達障がい者を苦しめる時もある。
たとえば、夜がねられない日が多くなったりする。
季節の変わり目はうれしいものだけど、その季節に対応して行かないと僕達はとんでもないことになりかねない。1年中暑かったり1年中寒かったりは逆に頭がぼけてしまう。だから四季のある日本で暮らして行くには本当に難しいけど、この季節がないと人間は絶対だめになる。
春夏秋冬よ、どうか僕たちと仲良く接してください。
そして僕たちもそれらに負けないように順応して行きますので、どうかよろしくお願いします。　（1月　S.F）

病気の方から来ました

結婚して家庭を持つことです。 就職したいです。
会社の社長になって路上で寝ている人にお弁当とおみそ汁を無料で配ってあげたいです。
1日も早く精神病を治したいです。
病気は、なりたくてなったわけではなく、病気の方からきました。つらかったです。
親孝行したいです。
健康の方もストレスをためずにコミュニケーションをとってこれからも、ずうっと健康な毎日を過ごして行きたい。
（コラーゲンハイボール）

自分の居場所はやすらぎ工房

映画会第一部の体験者の発表を聞きました。質問者から、あなたの病気が治りかけたきっかけは何かと聞かれたことに対して、発表者から家族の支えが大きかったという意見が出ていましたが、私もそう思いました。
この前も、妹に「人と会話が出来ひん」と言うと「ほな、せんでええやん」と妹が言いました。
その後私は、「自分は何をあせっていたのか、何も無理して自分のスタイルを替える必要は無いのだ」と思いました。そう思うと少し気持ちが軽くなったように感じました。
私は、家族や、「やすらぎ工房」の皆さんや、ほんとに多くの人々に支えられているのだと思います。私は、やすらぎ工房に来て2年になりますが、最近、やっと「やすらぎ工房」が自分の居場所になってきたと感じています。
やすらぎ工房の皆さん、これからもよろしくお願いします。

映画「ふるさとをください」上映会

よかった体験談発表

第一部　障がい者からの体験談発表がとてもよかった。自分自身の体験と合わせて考えたり、為になりました。司会者の進め方も上手く聞きやすく、また、体験者の方の発表は、私ではとてもではないけど真似できないと思いながら聞きました。お疲れさまでした。

お願い

～賛助会員になってください～

NPO法人そよかぜねっとは、精神しょうがいのある人たちが安心して、自分らしく、自立して暮らせる地域創りを目指し、就労継続支援B型事業「やすらぎ工房」の運営、啓発・広報、地域交流活動を行っています。
一人でも多くの方のご理解とご支援を願っています。
年会費：個人2千円・団体３千円
（会費は、法人の運営費に充当されます。）

～ご賛同頂ける方は、下記電話までご連絡ください～
払込用紙（手数料不要）を送らせていただきます。
TEL・FAX　0794―85―9990

oda seigo

4名が体験発表「やすらぎ工房」の利用者（元、現）

昨年12月5日（土）文化会館小ホールにおいて、障害者週間特別企画として映画『ふるさとをください』上映会が開催された。（主催：三木市、三木市障害者相談支援センター）
第一部で、障がい者本人からの体験談を発表した4名は、3名が元やすらぎ工房利用者でうち2名は障がい者枠で自ら就労し、1名は他の事業所へ移動、残る1名は、安定かつ元気でやすらぎ工房を

編集後記

原稿を寄せていただいた方に感謝します。
第5号に寄せて、ちょっとこの頃考えること――――
高齢化による独居老人の増加、正規雇用からはみ出す若者の増加、生涯未婚率(今は1／4から1／3へと伝えられている)などで日本は「無縁社会」になっていくと警告されています。その現実の中でハンディを持つ人などへのボランティアは、孤立しがちな人がその絆を得て、広げられる実に稀有な活動です。そのような無私の活動で、私たちも絆の輪を広げ深めて、互いに支え、支えられて少しでも潤いある、それぞれの「居場所」を創っていけるのではないでしょうか。

「寄付を集めておられますねぇ」「･･･」／「近くに住んでおり、通信で賛助会員募集を見た･･」「それなら当法人です」／「賛助でなく･･･」「正会員でしょうか？」／「障害者のために利用できるなら、家･土地を寄付したい。転居を決めている。」
有難いご寄付の話は、こんな電話からスタートしたのです。
紙面の中の小さなコラムが大きなご縁となり、法人は言い尽くせない程ビッグなXmasプレゼントをいただきました。数多の情報の中から当法人を選んでいただけた奇縁に感謝感激！です。青山の丘の地肌に緑の芽吹きを感じます。ウグイスの初鳴きもあと少し、素晴しい春から1年であってほしい。

就労継続支援B型事業所
やすらぎ工房
〒673-0521　三木市志染町青山1丁目26番地
TEL･FAX　0794(85)9990

当事者の地域社会参加に希望をもって

伊東久雄

ある悩み----

ある精神福祉関係の雑誌への悩み相談に「同じ悩みを持っている人と共感したいのですが、それすら出来ず仕事もしてなくて毎日《消えてしまいたい》と思っています。恋愛も結婚もしたいけど、かなわない夢です。私は幸せになれないのでしょうか」と40代の男性が書いている。　彼はこれまで近くの「居場所」とつながれなかったのだろうか。
このように自宅に引きこもらざるを得ない当事者は少なくない。その家族もとてもつらく大変だ。（その実態は把握しにくいが、引きこもりの約半数は精神科の病からとの調査がある）

絆の中で

ところが、とても人前で自分を表現することが苦手だった当事者の女性が、講演メンバーとして自然に淡々と自らの闘病体験を語るようになったのを研修会で聞いた。
福祉ドキュメントのテレビでも彼女の姿を見た。その陰での支援者の並々ならない努力を思う。
人との関係で躓きがちな当事者にとって自分をありのままに表現し、人とうまく分かち合えることが自立していくことだろう。
誰でも仕事・家族・地域社会との絆の中で元気になる。
人は人の中でこそ、生きている実感を持つのだろう。

障害者の権利

国連で採択され、08年20か国が批准発効した障害者権利条約（21世紀の人権条約！）第19条で「この条約の締約国は、すべての障害者が他の者と平等の選択の機会をもって地域社会で生活する平等の権利を認めるものとし･･･地域社会に完全に受け入れられ参加することを容易にするための効果的かつ適当な措置をとる」と定めている（日本政府は署名したが未批准）。このような障害者の平等の権利、社会参加の権利はわが国の障害者基本法も明記している。
これらの権利が実現する社会は、全ての人が住みやすい社会であると思う。

寄付（贈与）により宅地・建物を取得

青山1丁目にお住まいであった名和好子様より、NPO法人そよかぜねっとに対し、「建物現況をできれば残す形で障害者福祉に役立ててほしい」と宅地・居宅（木造瓦葺平屋建）の寄付（無償贈与）のお申し出があり、当法人は、その篤志に深く感謝し、有り難くお受けすることにしました。１０月下旬のお申し出から諸手続きを経て、昨年１２月、所有権移転登記を完了しています。
地域の皆様のご理解・ご支援をいただきながら、この貴いお志を生かせる使途について慎重に検討していく予定です。
すぐ近くにお住まいの方からの真にうれしいニュースに、やすらぎ工房一同、喜んでいます。
（理事・そよかぜねっと理事会）

変→新　やすらぎ工房の今

NPO法人成立（19/12月）、年度途中(21/1月)から就継B型事業へ移行**変化**した20年度。21年度9月・10月には前所長と常勤職員の相次ぐ退職から**新職員体制**発足･･･、2年続きで年の漢字を地で行くことになった。
作業所当時と就継B事業の1日平均利用者数(増減)を右表に示す。
21年度の事業計画・予算においては、4月から《はばたきの丘》開所に伴なう移動減、就継A型（小野市）へ転籍2名などの理由から1日平均利用者を約5名減としていたから、ほぼ予測を少し堅めに推移している。
春から初夏にかけて、自ら就労〈1〉名A型へ移動〈2〉名を除く、9名の利用者が他の施設へ移動したが、中5名は昨年11月までに「やすらぎ工房」へ復帰しています。短い場合では、数日から1ヶ月余～2ヶ月余の中に〈4〉名、6ヶ月余で復帰が〈1〉名となっています。

（人）

年度	20	21	増減
4月	18.8	14.0	-4.8
5月	17.4	11.8	-5.6
6月	17.3	12.4	-4.9
7月	16.4	11.5	-4.9
8月	16.6	12.2	-4.4
9月	16.4	13.7	-2.7
10月	17.4	14.0	-3.4
11月	17.5	13.1	-4.4
12月	17.4	12.5	-4.9
1月	16.9	14.3	-2.6
2月	17.0	14.9	-2.1
3月	15.5	0.0	
合計	17.1	13.1	

･･小規模作業所実績　･･就労継続支援B実績

御礼！

～～　島原手延うどん･ちゃんぽん　**お買い上げありがとうございました。**　～～

●５２箱　（前年１２９箱）
●純益２.３万円　（前年６.９万円）
●利用者の工賃・ボーナスの原資に充当

昨年12月「長崎島原うどん」のあっせん販売をさせていただきました。多くの皆様のご協力ありがとうございました。いろいろあって初動が遅くなり前年ほどの純益を上げることが出来ませんでした。
夏には、もっと美味しい恒例の「島原手延べそうめん」を販売させて

共生社会　（理事　今泉義之助）

現在この言葉は広く知られています。今の世の中で全ての人々が、つまり身体的、精神的、環境的その他様々な面で日常活動をしていく上で何らかの支障がある人々、また何の支障もない人々がともに補完的な関係を保ち円滑な社会生活が出来るような社会という意味です。

この事は何も特別な考え方や行動が必要なわけではありません。つい２～３年前に地元の中学校が駅伝の全国大会に出場するに当たり、そのことを老人会の忘年会場で話をしたところ、すぐにその場で旅費の一助として役に立てるようにと寄金が集まりました。

また、三木市社会福祉協議会から隔月発行されている「みき社協」には毎号善意銀行預託として、金銭預託、物品預託が市民皆さんからの善意として多数掲載されています。さらに時々新聞記事にもなっているもので難病の治療をアメリカで受けるための募金には全国から億を超える善意募金が寄せられています。

これらを見ても、日本の社会においてはことさら共生社会を強調せずとも、現在目の前に支障があっても、また現前していなくても支障の可能性を想定して支援を寄せ相互補完的な人間社会関係を築いておられる方が多数おられます。

この度、ここ青山から市外へ転出された名和様より不動産のご寄贈をいただきましたことは、ここ青山の、ひいては三木市における共生の進展のための大変大きな御預託であり、この御預託についていかに内容を伴った実績を築いてゆくかということは、ご委託をいただいたNPO法人そよかぜねっとにとり真摯に取り組まなければならない責務であり、社会的責任でもあります。

この大きな課題につきましては、NPO自体の努力は無論のこと地元の皆様方からご理解とご協力、さらに三木市御当局によります絶大なご指導ご支援をいただきまして、名和様のご寄贈にこめられました、“障害者のためにお役に立てていただきたい”というお気持ちが花を咲かせるように皆様とともに活動を進めていかなければと決意いたしております。

みなさま方のご協力をなにとぞよろしくお願い申し上げます。

「さくらんぼ」会の活動～

”皆が喜んでくれるように”

三木市社会福祉協議会の精神障害者ボランティア養成講座受講者10数名が平成11年に立ち上げてから、やすらぎ工房出店のバザー応援、月1回のお楽しみ会（調理実習等）、餅つき大会などでの支援を通して、釜城館（三木図書館広場西）から始まった、やすらぎ工房の歴史とともに歩んで来ました。

このようなボランティア活動を通じて「自らも楽しみながら、皆が喜んでくれる」ことをやりがいにして、メンバーに声をかけられるように自然に接してきました。それを続けていくことが大事と思います。

来る3月20日（土）には、さくらんぼ主催で社協マイクロバスで神戸王子動物園を訪れ、動物とのふれあいで皆さんと共に楽しむ会を予定しています。現在会員は10名で活動しています。　**（中須賀会長談）**

「きゃっちぼーる」の活動について

（精神保健福祉ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱ）

三木市において、主にやすらぎ工房や精神障害のある人を支援するボランティアグループの一つとして「きゃっちぼーる」が結成されて昨年12月で満4周年を迎えました。平成17年に開催された「精神保健福祉ボランティア養成講習会」を受講した有志が中心になって設立し運営しています。

名前の由来は、精神に障害のある方を始め様々な人と関わりながら、思いや考えをキャッチボールのようにやり取りする場所でありたいという願いを込めて名づけられました。会員数は現在6名です。

次のような活動を主に行なっています。

① やすらぎ工房で利用者の皆さんと一緒に軽作業をしたり、休憩時間に共にお茶など飲みながらお話しの聞き役や話し相手をする。

② 工房が主催したり参加する地域交流会や各種行事などの計画や準備作業に参加する支援活動

③ ジャスコ三木店にて毎月11日に開催されるイエローレシート・キャンペーンに参加する支援活動

これらの支援はそれぞれの会員が自分の出来る範囲で取り組んでいます。

精神保健福祉に関心のある方のご参加を歓迎します。

（きゃっちぼーる代表：上原　靖視）

今、3グループのボランティアさんが支援してくださっています。ありがとうございます。

こんにちは！　こんにちは！

月に1度だけ、2時間だけですが、やすらぎ工房へ作業に行きます。玄関から入り、「こんにちは」と挨拶すると、あちらこちらから、「こんにちは」と声が返ってきます。本当に嬉しい瞬間です。少しでもお手伝いがしたいと思っていても、皆さんに気遣ってもらって、手を取るばかりです。

1月には、ボランティア交流会に参加しました。炊き込とてもおいしかったです。その時に、関西国際大学空手部の出前演技を見せていただきました。少し寒い中、素足で真剣に稽古されている姿に、関心すると同時に、若さがうらやましもありました。皆さんと楽しい時間を過ごせたことに感謝します。

2月は、コーンバーの留め具をタオルで拭きました。充実した時間でした。これからも、どうぞよろしくお願い

新職員の想い

《 してあげるより協力し合う》

昨年10月末より仕事をさせていただき、早いもので4ヶ月になります。最初はメンバーさんの名前、作業の流れを覚えるため、ずっとメモ帳を片手に、メンバーさんに作業の仕方などを教えてもらいながら必死になっていました。

自分の年令のことを考えると、人の倍働く、聞くをしないとついていけないのではないかと焦る気持ちが態度に出ていたのか、メンバーさんから「わしら、もう何年もやっとんや、ゆっくり覚えたらええんや」「最初は失敗するけど慣れてきたら失敗も減ってくるから大丈夫や・・」本当にありがたい言葉でした。

始めの頃は、メンバーさんに自分が何かをしてあげることが仕事と思っていましたが、大きな間違いであったと感じています。お互いに協力し合うのが、やすらぎ工房での本当の仕事だと思いました。ゆっくりゆっくりですが皆さんについていける様に努力していきます。これからもよろしくお願いします。　**（職員　森　和代）**

”やすらぎの木”が茂る社会に

「現場が好きなんです！」、何か難しい質問をされたか、またなんと答えたのかはよく覚えていないのですが、とにかくやすらぎ工房の門を叩いたのが、昨年の9月でした。それから6カ月足らず・・・しかしすっかり心地よくやすらぎ工房に根を伸ばし始めている私。

なぜ現場にこだわるのか？と考えてみると、そこにはありのままの自分を受け入れてくれる人たちがいるからではないでしょうか。メンバーさんが太陽となり水となり、私の木は枝を広げ、葉を生い茂らせて、今度はメンバーさんが心地よく居眠りしたり、休憩したり、語り合ったりできる木陰を創っていきたいと思います。

さて、そのつもりはなかったのですが、いま私には副所長という肩書が付いています。今までは自分の木の成長だけに力を注いでいればよかった訳ですが、そろそろ実をつけて、地域に社会に種を蒔きなさいよ・・ということではないかと考えています。

熟した実を持って、地域に社会に出かけなければいけません。「あの～ここに木を植えたいのですが」と。

「その実はどんな実だい？」「その木はどんな木になるんだい？」といわれるでしょう。見えない実なのだから無理もありません。私は実の味を・香りを・手触りを具体的に説明しなくてはなりません。

その木は、障害者のみならず、だれにとっても大切な”やすらぎの木”なのだと説明しなくてはならないでしょう。

実が木に育つには年月がかかるかもしれません。

それでも”やすらぎの木”が生い茂る地域社会を創ることが、今後の大きな課題になってくると思います。

（副所長　高岡　真弓）

「関西国際大学ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱ部　DAT」です

（ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱ団体）

私たち関西国際大学ボランティア部「DAT」は、昨年ボランティア部とボランティアサークル・DATが合併し、部員は19名になりました。

活動は主に三木市内の福祉施設でのボランティアや、地域のお祭りに参加しています。やすらぎ工房さんも交流させて頂いている施設のうちの一つで、大学から近いせいもありとても親しみを感じています。

私自信、過去の部活動でもしょうがい者の方と交流してきましたが、精神しょうがい者の方との交流はやすらぎ工房さんが初めてでした。作業所を始めて訪れたとき、利用者の方に声をかけていただき、緊張していた気持ちがほぐれました。

今では顔を覚えてくださっている利用者の方もいて、元気な挨拶をしてくれたり、話しかけたりしてくれるので、私はいつも元気をもらっています。

今後も、やすらぎ工房さんとの交流をはじめ、様々なボランティア活動をして行きたいと思いますので、どうぞよろしくお願いします。

（関西国際大学ボランティア部　上高明子）

元気をもらった！空手の稽古（1月15日）

メンバーさんの想いに寄りそって

先日、あるメンバーさんが、やすらぎ工房に対しての希望は？との質問に、”やさしくて、明るい、楽しい作業所であってほしい”と述べられました。

思わずメモってしまいましたが、この様な想いに応えられているか・・、毎日の利用の中で”今日も来てよかったな・・”と帰られているか等々、色々と考える機会をいただきました。

私も、早いもので在籍6年目に入り、やすらぎ工房も大分様変わりしましたが、居心地のいい居場所、活気のある作業場、季節を感じる行事への参加など、熱心なボランティアさんや、地域の方々に支えられ、最近のやすらぎ工房は、メンバーさん、スタッフ共々頑張っていると思います。

これからも、一人一人のメンバーさんの想いを知り、楽しく通所利用していただけるよう支援していきたいと思っています。　**（職員　川平　博子）**